



マルト便

MARUTO INFORMATION

ホームページが新しくなりました

マルト商事

検索

お客様の笑顔のために...

チャレンジ

1月号 DEC 2015

<http://www.maruto-shoji.co.jp>

謹賀新年



2016年

謹賀新年 ～新年のご挨拶～

新年あけましておめでとうございます。2016年が晴れやかにスタートしました。今年も皆様に喜んで頂けるよう、全速力で走り抜けていきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

「一年の計は元旦にあり」ということわざがあります。子供のころから聞かされている耳慣れたことわざの一つだと思います。意味としては、一年間の目標や計画は元旦に決めるのが良い…であったり、計画や準備が大切で初めの計画がしっかりとしていないと物事はうまくいかない…という意味のことわざです。

由来を調べてみると有力な説が二つあるようです。一つ目は戦国大名毛利元就の言葉です。毛利元就は室町時代後期から戦国時代にかけて活躍した安芸（現在の広島県辺り）出身の大名です。中国地方を統一した毛利元就は「戦国最高の知将」「謀神」と呼ばれ、稀代の策略家として名をはせた人物でした。「三本の矢」の話でも有名ですね。彼が1588年、長男毛利隆元へ「一年の計は春にあり 一月の計は朔にあり 一日の計は鶏鳴にあり」と手紙に書いたそうです。春は年の初めのこと、朔は月初めのこと、鶏鳴は一番鶏の鳴く早朝のことを意味します。ですから「一年の計画は年の初めに、ひと月の計画は月初めに、一日の計画は早朝に立てなさい」という意味になります。毛利元就は何事も最初が肝心であるということをお話しているとされています。

もう一つの説は中国の書物「月令広義」という中国の伝統的な行事、儀式、しきたりを解説した書物に出てくる四計というものが由来であるという説です。月令広義は明の時代の万暦という元号の頃（1573年～1620年）に馮應京（ひょうおうきょう）という学者が書いたとされています。その中に「一日の計は晨（あした）にあり、一年の計は春にあり、一生の計は勤にあり、一家の計は身にあり」という生活を充実させるための方法として「四計」の解説が出てきます。晨（あした）というのは朝のことで春は年の初めのことです。その内容は、一日の計画は朝立てることが肝心、一年の計画は元旦に立てることが肝心、

一生の計画はきちんと仕事をするのが肝心、一家の計画（将来）は主人の生き方（体という解釈もあり）が肝心、という訳になるそうです。「一年の計は元旦にあり」は、二番目に出てくる一年の計は春にありというところが定着したというものです。このように月令広義では人生訓の一つとして掲載されているところが興味深いところであると思います。国は異なりますが、毛利元就、馮應京ともに同じ時代に生きた偉人が同じようなことを考えていたのかと考えると、一層重みがある言葉であると感じます。「一年の計は元旦にあり」という言葉は昔から伝えられてきた一つの真理なのではないでしょうか。

毛利元就も月令広義も一年の計画を元旦にたてることの大切さを説いていますが、同時に毎日の計画についても言及しています。一年間の大きな目標を掲げつつ、日々の積み重ねもまた大切であるということも伝えているようにも思います。私は、「一年の初めは、初心に帰り決意を確認すべき」と解釈し、「マルト商事は玉葱を中心とした農産物を通じて関わる全ての皆様に喜んで頂けるように努める」と決意を新たにしました。そして社員一同丸となって、日々精進を続けていきたいと思っております。日々の努力の積み重ねを大切に、今日より明日が少しでも良くなるようにと今年一年進んで参ります。

具体的には昨年整備した剥き玉葱ラインの改良を重ね、商品の品質向上を目指します。付加的な設備に関しても適当な投資を進めて参ります。また使用する原料各品目において、ご協力頂いている生産者様との更なる関係性の強化を図りたく考えております。上記はごく一部ですが、様々なアプローチから日々進歩ができるように皆で努力を積み重ねていく所存です。今期は社員力の強化も目的に掲げております。ハード面だけではなく、マルト商事社員のレベルアップが必ずお客様のご期待に沿うために必要であると考えています。

2016年も皆様の変わらぬご愛顧と御指導を何卒お願いするとともに、今年一年が皆様にとって素晴らしい年となることを重ねて祈念申し上げまして新年のご挨拶とさせていただきます。

営業中村のマルト便PLUS！Ver2016

本年もどうぞよろしくお願いいたします。
1月のマルト商事玉葱産地情報&見通しをお届けします！



取扱産地	産地状況 & 今後の見通し
国産	北海道産の玉葱は12月中旬に品種の切替が進んでおります。前半メインの「オホーツク222」から後半の「北もみじ2000」へ。オホーツク222は1月に入り、少量ではありますが発芽発根が見受けられます。品質に注意しながら出荷をしたいと思っております。今月の中下旬には北もみじ2000へほぼほぼ移行します。ここまで2L中心の入荷でしたが、ワンサイズ下のL大がメインになってきました。品質良好です。
中国	昨年11月中旬ごろから1段、2段、3段と価格を上げてきた中国産玉葱(甘肅省産)。とくに12月の相場はキロあたり20円前後上げたタイミングもあり、振り回された玉葱ユーザー様も多かったのではないのでしょうか。急騰の空気はここで落ち着きを見せておりますが、例年通り3月までは月5円/kgずつ上がっていくと予測されています。入荷している玉葱の品質は良好で、大玉中心に加工をしております。
アメリカ(黄玉、赤玉)	黄玉葱、赤玉葱ともに品質良好です。お陰さまで、赤玉葱につきましては国産も含めて過去最高の出荷数量になるのではないかと考えられます。アメリカ産赤玉葱は不作ですので、例年よりも早めにニュージーランド産へ切り替える予定です。その間、北海道産使用をご案内する可能性もありますが、状況をご理解いただき、ご協力いただけると幸いです。

※本記事に関するご要望・改善等ございましたらお気軽にご連絡ください。
お問い合わせはコチラ⇒TEL049-258-5315